

## ちいさな鹿

慶良間諸島で農地を見かけたら、おそらく高い柵で囲まれていることでしょう。これは、農家が最善を尽くして収穫物を地元の鹿から守るためにあります。この鹿は、ニホンジカの亜種、ケラマジカ（学名：Cervus nippon keramae）として知られています。日本本土から17世紀に導入されたケラマジカは島独自の進化を遂げ、体格も小さく、毛皮の色が濃く、小さい頭と角を持ちます。

ケラマジカとその2つの生息地、慶留間と屋嘉比は、1972年、国指定天然記念物に登録されました。1970年代後半には、推定約60頭の鹿が、屋嘉比、慶留間、阿嘉の諸島に生息していました。それ以来、鹿の数は保護の取り組みの結果、回復し、阿嘉や慶留間において、近くで遭遇する可能性が高いです。鹿は非常に神経質ですが、かなり人に慣れています。